

【専門分野Ⅱ】

授業科目名	成人看護学概論		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	成人期にある対象とその家族の特徴を理解し、対象の生活や価値観に応じた看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成人の位置づけを成長発達・成熟から理解し、身体的・精神的・社会的特性について統合的に理解できる。 2. 成人期における対象とその家族に対して健康の保持・増進、予防および健康障害からの回復を促すための看護の役割について理解できる。 3. 成人教育学および成人看護に有用な概念を学ぶことで、効果的な健康教育や患者教育について理解できる。 		
回数	授業内容		授業方法
1	成人看護学の位置づけ、成人とは ・成人看護学の対象である成人の理解 ・成長発達段階における成人期の位置づけと成人各期の成長発達		講義、GW
2	成人保健 保健統計からみた成人の健康の動向 (1)		講義、GW
3	成人保健 保健統計からみた成人の健康の動向 (2)		講義、GW
4	成人保健 ・成人の生活や健康に関する問題と現状		講義
5	成人への看護アプローチの基本 ①大人の学習の特徴、健康行動を促進するアプローチ ②患者の意思決定のプロセスと看護の役割 成人の健康レベルに対応した看護 ①大人のヘルスプロモーションと看護 ②地域社会及び職場のヘルスプロモーションを促進する看護 ③ストレスと健康、健康生活を脅かす要因と実態、生活行動に潜む危険とその予防		講義
6	慢性疾患を抱える患者への看護		GW、RP
7	慢性疾患を抱える患者への看護技術		講義、GW
8	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護		講義、GW
9	・身体侵襲を伴う治療・処置を受ける患者の身体的・精神的・社会的苦痛の理解		講義、GW
10	・侵襲刺激に対する生体反応		講義、GW
11	・生命維持・苦痛の緩和・合併症予防・早期回復を促進するための援助		講義、GW
12	障害がある人の生活とリハビリテーション (1)		講義、DVD
13	障害がある人の生活とリハビリテーション (2)		講義、DVD
14	人生の最後の時を支える看護 (1)		講義、DVD
15	人生の最後の時を支える看護 (2)		講義、DVD
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 国民衛生の動向			
評価方法・基準 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 80 点、レポート 20 点分を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	成人臨床看護 援助論 I		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師・特定行為研修修了者
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期
目的	1. 機能障害が成人の身体面、精神面、社会面に与える影響を理解し、観察・アセスメントし看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 2. 機能障害と主な症状・治療・処置・検査に応じた看護を理解し、健康段階に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 3. 機能障害とその特徴をふまえた家族支援や社会資源の具体的な活用方法が理解できる。		
到達目標	1. 呼吸・循環にかかわる機能の障害が生命維持や生活に与える影響を理解し、生涯にわたり疾病のコントロール・治療を必要とする対象のセルフケアを促進するための看護について理解できる。 2. 急激に変化する状態をアセスメントし、生命の維持に必要な看護について理解できる。		
回数	授業内容	時間の内訳・授業方法	
1	呼吸器疾患患者の特徴と看護、主要症状に対する看護（咳・痰、呼吸困難）	12 時間 講義	
2	内科的検査・治療を受ける患者の看護（1）	適宜、事例に基づく看護過程を展開する。 演習：気管内吸引	
3	内科的検査・治療を受ける患者の看護（2）		
4	呼吸器の手術を受ける看護		
5	呼吸器疾患をもつ患者の看護（1）		
6	呼吸器疾患をもつ患者の看護（2）		
7	循環器疾患患者の特徴と看護 主要症状に対する看護（胸痛、動悸、浮腫、チアノーゼ、倦怠感）		
8	検査を受ける患者の看護（心臓カテーテル法、心電図検査）	講義	
9-10	治療・処置を受ける患者の看護 （薬物療法、心臓カテーテル治療、心臓・血管の手術、心臓リハビリテーション）	講義	
11	疾患を持つ患者の看護（虚血性心疾患、心不全、動脈疾患）	講義	
12	集中治療室とは	8 時間 講義	
13	集中治療を受ける患者の看護（1）	講義	
14	集中治療を受ける患者の看護（2）	講義	
15	救急救命時の看護	講義・演習	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点（呼吸器 40 点、循環器 30 点、集中治療 30 点）とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	成人臨床看護 援助論Ⅱ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期
目的	1. 機能障害が成人の身体面、精神面、社会面に与える影響を理解し、観察・アセスメントし看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 2. 機能障害と主な症状・治療・処置・検査に応じた看護を理解し、健康段階に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 3. 機能障害とその特徴をふまえた家族支援や社会資源の具体的な活用方法を理解できる。		
到達目標	運動機能、中枢神経機能の障害が成人の日常生活に与える影響を理解し、障害の受容や身体機能の維持・回復・向上、QOL の維持・向上にむけた看護について理解できる。		
回数	授業内容		時間の内訳・授業方法
1	運動器疾患患者の特徴と看護		16 時間 講義 適宜、事例に基づく看護過程を展開する。 演習：松葉杖、歩行器の使用
2	主な症状と看護（神経麻痺、四肢の循環障害）		
3	保存療法を受ける患者の看護（牽引療法、ギプス固定）		
4	手術療法を受ける患者の看護（急性期患者の看護）		
5	膝関節の手術を受けた患者の看護		
6	股関節の手術を受けた患者の看護		
7	脊椎の手術を受けた患者の看護		
8	リハビリテーションを受ける患者の看護		
9	脳神経疾患患者の特徴と看護		14 時間 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
10	内科的治療を受ける急性期の患者の看護		
11	主な症状と看護		
12	外科的治療を受ける患者の看護		
13	内科的治療を受ける回復期の患者の看護		
14	主な症状と看護（言語障害・嚥下障害）		
15	内科的治療を受ける患者の看護とまとめ		
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点（運動器 50 点、脳・神経 50 点）とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名		成人臨床看護 援助論Ⅲ		
担当講師				
実務経験の有無		有・無	実務経験内容	
		看護師・造血細胞移植コーディネーター がん化学療法認定看護師・手術室認定看護師		
単位・時間数		1単位 30時間	開講年次	
		2年次前期		
目的		<ol style="list-style-type: none"> 機能障害が成人の身体面、精神面、社会面に与える影響を理解し、観察・アセスメントし看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 機能障害と主な症状・治療・処置・検査に応じた看護を理解し、健康段階に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 機能障害とその特徴をふまえた家族支援や社会資源の具体的な活用方法について理解できる。 		
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 消化・吸収機能の障害が成人の生命維持や日常生活に与える影響を理解し、健康の回復や生活習慣の見直し・再構築にむけた看護について理解できる。 免疫機能の障害が成人の心身に与える影響を理解し、低下している生体防御機能の回復や合併症を予防するための看護について理解できる。 身体侵襲を伴う治療が生命維持に与える影響を理解し、生命維持や苦痛の緩和、健康の回復に向けた看護について理解できる。 		
回数	授業内容			時間の内訳・授業方法
1	手術中の看護 (1)			4時間 講義
2	手術中の看護 (2)			講義
3	消化器疾患患者の特徴と看護、主な症状に対する看護 (1)			10時間 講義
4	主な症状に対する看護(2) 検査、内科的治療を受ける患者の看護(1)			講義
5	内科的治療を受ける患者の看護(2)			講義
6	胆嚢、膵臓、肝臓疾患のある患者の看護			講義・GW
7	事例による看護過程の展開			講義
8	消化器・腹部の手術を受ける患者の看護			14時間 講義
9	胆嚢、肝臓、膵臓の手術を受ける患者の看護			講義
10	外科的看護の特徴、手術前の患者の看護			講義
11	感染症、輸液療法、輸血療法を受ける患者の看護			講義
12	手術後の患者の看護			講義・GW
13	手術を受ける高齢者の看護(1)			適宜、事例に基づく看護過程
14	手術を受ける高齢者の看護(2)			を展開する。
15	血液疾患患者の看護			2時間 講義
教科書				
系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4]血液・造血器				
評価方法・基準				
<ol style="list-style-type: none"> 出席時間数の3分の2以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 筆記試験は100点満点(手術室10点、周手術期50点、消化器・血液・造血器40点)とし、60点以上で合格とする。 				

授業科目名		成人臨床看護 援助論Ⅳ		
担当講師				
実務経験の有無		有	無	実務経験内容
単位・時間数		1 単位 30 時間		看護師・糖尿病看護認定看護師
		開講年次		2 年次前期
目的		1. 機能障害が成人の身体面、精神面、社会面に与える影響を理解し、観察・アセスメントし看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 2. 機能障害と主な症状・治療・処置・検査に応じた看護を理解し、健康段階に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 3. 機能障害とその特徴をふまえた家族支援や社会資源の具体的な活用方法を理解できる。		
到達目標		1. 内部環境調節にかかわる機能の障害が生命維持や生活に与える影響を理解し、生涯にわたり疾病のコントロール・治療を必要とする対象のセルフケアを促進するための看護について理解できる。 2. 感覚機能の障害が成人の心身やコミュニケーション、日常生活に与える影響を理解し、安全・安楽に生活するための看護について理解できる。 3. 免疫機能の障害が成人の心身に与える影響を理解し、低下している生体防御機能の回復や合併症を予防するための看護について理解できる。		
回数	授業内容			時間の内訳・授業方法
1	下垂体疾患、パセドウ病のある患者の観察、アセスメントと看護			10 時間
2	甲状腺疾患、副腎疾患のある患者の観察、アセスメントと看護			講義
3	糖尿病の治療、看護			講義
4	インスリン自己注射、SMBG の体験、合併症の看護			演習：血糖測定
5	高尿酸血症、脂質異常症のある患者の看護			講義
6	皮膚疾患患者の看護、主要症状に対する看護（掻痒、鱗屑・落屑）			6 時間 講義
7	治療・処置を受ける患者の看護（外用療法、手術療法、）			講義
8	疾患を持つ患者の看護（帯状疱疹、熱傷、褥創、難治性潰瘍）			講義
9	耳鼻咽喉科疾患の症状がある患者の看護			14 時間 講義
10	耳鼻咽喉科疾患の症状がある患者、各疾患に対する治療を受ける看護			講義
11	眼疾患患者の看護			講義
12	アレルギー疾患患者の看護（アナフィラキシー、気管支喘息）			講義
13	膠原病患者の看護（関節リウマチ、多発性筋炎、SLE）			講義
14	感染症のある患者の看護（1）			講義
15	感染症のある患者の看護（2）			講義
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉			
評価方法・基準				
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点（内分泌・代謝 35 点、皮膚 15 点、アレルギー・膠原病・感染症、眼・耳鼻咽喉 50 点）とし、60 点以上で合格とする。				

授業科目名	成人臨床看護 援助論Ⅴ		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 看護師・透析看護認定看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期
目的	<ol style="list-style-type: none"> 機能障害が成人の身体面、精神面、社会面に与える影響を理解し、観察・アセスメントし看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 機能障害と主な症状・治療・処置・検査に応じた看護を理解し、健康段階に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。 機能障害とその特徴をふまえた家族支援や社会資源の具体的な活用方法を理解する。 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 内部環境調節にかかわる機能の障害が生命維持や生活に与える影響を理解し、生涯にわたり疾病のコントロール・治療を必要とする対象のセルフケアを促進するための看護について理解できる。 排泄機能、生殖機能の障害が心身に与える影響を理解し、ボディイメージの変容やセルフケアを促すための看護について理解できる。 		
回数	授業内容		時間の内訳・授業方法
1	腎機能障害のある患者の看護		20 時間 講義
2	経過別、症状(浮腫、高血圧)、検査、治療を受ける患者の看護		講義
3	透析治療を受ける患者の看護		講義
4	外科的治療を受ける患者の看護(腎摘出術、腎移植)		講義
5	腎・泌尿器の主要症状に対する看護(排尿障害、尿の量・性状の異常)		講義
6	腎・泌尿器の処置を受ける患者の看護		講義
7	腎・泌尿器の手術療法を受ける患者の看護 (経尿道的手術、膀胱全摘出術・尿路変更術)		講義
8	腎・泌尿器の手術療法を受ける患者の看護 (経尿道的手術、膀胱全摘出術・尿路変更術)		講義
9	事例による看護過程の展開(腎不全)		GW
10	腎機能障害のある成人の観察・アセスメントと看護・まとめ		講義
11	女性生殖器疾患患者の特徴と看護		10 時間 講義
12	女性生殖疾患の治療・処置を受ける患者の看護(診療の介助)		講義
13	女性生殖疾患の治療・処置を受ける患者の看護 (化学療法、放射線療法、ホルモン療法)		講義
14	手術を受ける患者の看護(乳房切除術)		講義
15	手術を受ける患者の看護(女性生殖器切除術)		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 筆記試験は 100 点満点(腎・泌尿器 70 点、女性生殖器 30 点)とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	老年看護学概論		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 看護師・認知症ケアサポーター
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	<p>老年期における身体的・精神的・社会的特徴を理解し、その人らしい生活とその人らしく健やかに老いることを支えるための看護について理解できる。また高齢社会における医療と福祉の意義について理解し、保健福祉活動と看護について理解する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期における身体的・精神的・社会的特徴を理解し、その人らしく健康を支えるための看護について理解できる。また家族支援のあり方や社会資源の活用について理解できる。 2. 高齢者の価値・信念に基づいてより健康な生活をおくることの意義について理解できる。 3. 高齢社会における医療と福祉の意義について理解し、保健福祉活動と看護の役割について理解できる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	高齢者のイメージ	講義・個人ワーク・GW	
2	高齢者社会の現況	講義・GW	
3	高齢者差別と権利擁護	ミニテスト・GW・講義	
4	身体拘束	講義・GW	
5	成年後見制度と日常生活自立支援事業	講義	
6	高齢者保健医療福祉の動向と内容 (1)	個人ワーク・GW	
7	高齢者保健医療福祉の動向と内容 (2)	GW 発表	
8	介護保険制度	ミニテスト・講義	
9	高齢者の加齢に伴う身体的変化 (1)	GW	
10	高齢者の加齢に伴う身体的変化 (2)	GW 発表	
11	高齢者の加齢に伴う身体的変化 (3)	GW 発表・講義	
12	高齢者体験	演習	
13	高齢者の加齢に伴う心理的变化	講義	
14	高齢者の加齢に伴う社会的変化	講義	
15	高齢者の理解や老年看護の実践にかかわる基本的な理論・概念	講義	
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 国民衛生の動向			
評価方法・基準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 90 点、ミニテスト・課題 10 点分を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	老年臨床看護援助論		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師・認知症ケアサポーター 老人看護専門看護師
単位・時間数	2 単位 45 時間	開講年次	2 年次前期
目的	高齢者に起こりやすい症状と治療・処置が身体面・精神面・社会面に与える影響を理解し、看護を実践するための知識・技術・態度を習得する。また生活機能の視点からアセスメントし、高齢者のもてる力を引き出すことでその人らしく自立した生活がおくれるようにするための看護を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療や処置が高齢者の心身に及ぼす影響を理解し、苦痛・不安の緩和や回復への意欲を高めるための看護について理解できる。 2. 高齢者に起こりやすい症状が日常生活に及ぼす影響を理解し、QOL の維持・向上にむけた看護について理解できる。 		
回数	授業内容		授業方法
1	老年看護の特徴と役割		講義・ミニテスト
2	老年看護における理論・概念		講義
3	高齢者の生活を支える看護、高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護		講義
4	・コミュニケーションに影響を及ぼす要因・アセスメントと看護		講義
5	・視覚障害、聴覚障害、言語障害		講義
6	・活動に影響を与える要因・アセスメントと看護		講義
7	・廃用症候群		演習
8	・食生活に影響を与える要因・アセスメントと看護		講義
9	・摂食嚥下障害・低栄養・脱水・褥瘡・骨粗鬆症・骨折 (1)		演習
10	・摂食嚥下障害・低栄養・脱水・褥瘡・骨粗鬆症・骨折 (2)		講義
11	・摂食嚥下障害・低栄養・脱水・褥瘡・骨粗鬆症・骨折 (3)		講義
12	・排泄障害に影響を与える要因・アセスメントと看護		講義・演習
13	・尿失禁・便秘・下痢		講義
14	・清潔に影響を与える要因・アセスメントと看護 (1)		演習
15	・清潔に影響を与える要因・アセスメントと看護 (2)		講義
16	・皮膚の障害・感染		演習
17	・高齢者の休息に影響を与える要因・アセスメントと看護		講義
18	健康段階各期の高齢者の特徴と看護 (1)		演習
19	健康段階各期の高齢者の特徴と看護 (2)		講義・演習
20	老年期における終末期の看護、エンドオブライフケア		講義・演習
21	認知機能障害のある高齢者の看護 (1)		講義
22	認知機能障害のある高齢者の看護 (2)		講義
23	まとめ		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 90 点、課題 10 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	老年看護技術		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師・認知症ケアサポーター
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	2 年次後期
目的	老年看護学概論および援助論で学んだ知識・技術を基盤に、健康障害が高齢者の身体面・精神面・社会面におよぼす影響を理解し、生活機能の視点からアセスメントし、看護を展開する技術を習得する。		
到達目標	事例をとおして高齢者の身体面・精神面・社会面におよぼす影響を理解し、生活機能の視点からアセスメントし、看護を展開する技術を身につけることができる。		
回数	授業内容	授業方法	
1	老年の特徴をふまえたアセスメントの視点を考える (1)	講義・個人ワーク	
2	老年の特徴をふまえたアセスメントの視点を考える (2)	GW	
3	老年の特徴をふまえたアセスメントの視点を考える (3)	GW 発表・講義	
4	褥瘡予防 (体圧測定とマットレスの選択) (1)	演習	
5	褥瘡予防 (体圧測定とマットレスの選択) (2)	演習	
6	事例展開 (アセスメント) 「高齢者に起こりやすい症状に対する看護」 「在宅復帰を目指す高齢者の看護」 「高齢者とその家族への療養指導」	講義・個人ワーク	
7	事例展開 (看護計画)	講義・個人ワーク	
8	事例展開による入浴の援助	演習	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験 75 点、課題 25 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	小児看護学概論		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 看護師
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	2 年次後期
目的	子どもの成長発達と現代における子ども像をとらえ、小児看護の基本的な考え方を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの正常な成長・発達とのかかわりを理解し、対象の発達段階に応じた看護を行なうための基礎的知識について理解できる。 2. 現代の子どもにおける健康問題について理解できる。 3. 子どもを取巻く保健・福祉・医療について（看護の役割が）理解できる。 4. 小児看護の特徴や役割について理解できる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	子どもとは、小児看護とは	講義	
2	子どもの成長・発達	講義	
3	子どもの栄養	講義	
4	身体機能の特徴～新生児	講義	
5	身体機能の特徴～乳児・幼児・学童	講義	
6	運動機能の発達～乳幼児、知的機能 コミュニケーション機能の発達、生活習慣の確立	講義	
7	認知機能の発達、情緒的発達	講義	
8	社会性の発達（1）	講義	
9	社会性の発達（2）	講義	
10	社会性の発達（3）、思春期の特徴（1）	講義	
11	思春期の特徴（2）	講義・GW	
12	子どもの死亡に関する動向と対策	発表・講義	
13	子どもと家族を支える法律・施策	発表・講義	
14	小児看護における倫理、子どもの権利（1）	GW	
15	小児看護における倫理、子どもの権利（2）	発表・まとめ	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	小児臨床看護援助論 I		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
目的	病態治療論で習得した知識に、子どもの成長発達と現代における特徴を統合させ、健康障害を持つ子どもとその家族について理解し、健康障害のある子どもをアセスメントするための基礎的知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに特徴的な疾病と、治療・処置・検査法について理解できる。 2. 疾病や障害を持つ子どもの特徴について理解できる。 		
回数	授業内容		授業方法
1	小児の特徴、成長、発達		講義
2	染色体異常、遺伝性疾患		講義
3	栄養、消化器疾患		講義
4	循環器疾患、川崎病		講義
5	血液・腫瘍性疾患		講義
6	細菌感染症		講義
7	腎・泌尿器疾患		講義
8	呼吸器疾患、アレルギー疾患		講義
9	ウイルス感染症、予防接種		講義
10	リウマチ性疾患、免疫不全		講義
11	新生児、眼・耳・運動器疾患		講義
12	虐待・事故、皮膚疾患		講義
13	内分泌・代謝疾患		講義
14	神経疾患、発達障害、心身症、精神疾患		講義
15	小児救急疾患		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 II 小児臨床看護各論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	小児臨床看護援助論Ⅱ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次後期
目的	子どもの成長発達を支えながら、健康問題を持つ子どもとその家族への看護援助を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病を持つ子どもとその家族への基礎的な看護について理解できる。 2. 子ども特有の症状とその看護について理解できる。 3. 入院治療処置が子どもとその家族に与える影響について理解できる。 4. 子どもの発達段階に応じて、セルフケア能力を生かした看護について理解できる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	健康問題・発達障害を持つ子どもと家族の看護 (1)	講義	
2	健康問題・発達障害を持つ子どもと家族の看護 (2)	講義	
3	各健康段階にある子どもの看護 (1)	講義	
4	各健康段階にある子どもの看護 (2)	講義	
5	各発達段階にある子どもの看護 (3)	講義	
6	疾病の経過とその看護 (急性期、慢性期、周手術期、終末期) (1)	演習	
7	疾病の経過とその看護 (急性期、慢性期、周手術期、終末期) (2)	GW	
8	検査処置を受ける子どもの看護 (1)	発表・まとめ	
9	検査処置を受ける子どもの看護 (2)	発表・まとめ	
10	障害のある子どもの看護 (1)	演習	
11	障害のある子どもの看護 (2)	GW	
12	子どもに特徴的な症状とその看護(1) (機嫌、痛み、発熱、嘔吐、下痢、便秘、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、アレルギー、痙攣)	GW	
	子どもに特徴的な症状とその看護(2)		
13	子どもに特徴的な症状とその看護(3)	GW	
14	虐待と看護	発表	
15		講義、まとめ	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	小児看護技術		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次後期
目的	具体的な事例を挙げ、フィジカルアセスメントやプリパレーションを積極的に取り入れて子どもの理解や倫理的配慮の強化を行い、子どもの特徴をふまえた小児看護技術を習得する		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 事例を通して健康障害のある子どもとその家族の看護が理解できる。 子どもの特徴を踏まえた、基礎的な小児看護技術を身につけることができる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	コミュニケーション、VS(呼吸・体温・脈拍・血圧)	講義	
2	身体測定(体重、身長、頭囲、胸囲、大泉門)	講義	
3	身体的アセスメント 処置を受ける子どもの看護：薬物療法	講義	
4	検査、処置を受ける子どもの看護：検体採取	講義	
5	日常生活・症状緩和の看護	講義	
6	日常生活援助・事故予防	演習	
7	看護過程の展開技術	GW	
8	下痢・嘔吐のある子どもの看護	発表・まとめ	
9	川崎病の子どもの看護	発表・まとめ	
10	フィジカルアセスメント（呼吸器感染症）	演習	
11	プレパレーション（1） （ネフローゼ症候群・成長ホルモン分泌検査・気管支喘息・扁桃全摘）	GW	
12	プレパレーション（2）	GW	
13	プレパレーション（3）	GW	
14	プレパレーションの発表	発表	
15	まとめ	まとめ	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 出席時間数の3分の2以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 筆記試験100点満点とし、60点以上で合格とする。 			

授業科目名		母性看護学概論		
担当講師				
実務経験の有無		有・無	実務経験内容	
			助産師・アドバンス助産師・思春期保健相談員	
単位・時間数		1 単位 30 時間		開講年次
				2 年次前期
目的		ライフサイクルを通じて母性とは何かを理解し、女性のライフサイクルにおける身体的・精神的・社会的特徴を理解する。また、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を通して女性の健康問題や権利・生命倫理と母子保健活動における看護の役割について理解する。		
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクルにおける身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 リプロダクティブヘルス/ライツの理解を通して女性のライフサイクルにおける健康問題と権利および生命倫理について理解できる。 母子保健統計と政策について理解し、母子保健活動における看護の役割について考えることができる。 		
回数	授業内容			講義方法
1	母性看護の基盤となる概念 母性の定義、リプロダクティブヘルス/ライツ 妊娠のサイクル・命の誕生			講義 GW
2	親と自分 母性を考える			GW
3	リプロダクティブヘルス・ケア ①家族計画（避妊）			講義
4	リプロダクティブヘルス・ケア ②性感染症と予防・看護			講義、GW
5	リプロダクティブヘルス・ケア ③人工妊娠中絶について（ビデオ含む）人工妊娠中絶の看護			講義
6	リプロダクティブヘルス・ケア ④喫煙女性と看護 ⑤性暴力と看護			講義、GW
7	リプロダクティブヘルス・ケア ⑥児に対する虐待			講義
8	基礎体温表の解説（ホルモン、月経周期、月経異常など） 母性看護の法的役割、倫理、ディベートの説明			講義、GW 講義、GW
9	母性の生命倫理を考える			ディベート
10	ディベートの振り返り 日本の母性看護の歴史、母性看護の在り方、産科医療補償制度 母性看護の動向、GW の説明			講義、GW
11	性腺、性器分化異常、性周期			講義
12	思春期～老年期の健康問題と看護、性教育について			講義、GW
13	母性看護の動向			GW
14	周産期に必要な用品、行事などの調査発表（1）			発表
15	周産期に必要な用品、行事などの調査発表（2） まとめ			発表・まとめ
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論				
評価方法・基準 <ol style="list-style-type: none"> 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 				

授業科目名	母性臨床看護援助論 I		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期
目的	周産期各期の母体と胎児および新生児の身体的・生理的特性を理解し、健康状態をアセスメントするための基礎的知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期各期における母体の身体的変化と正常な経過及び正常からの逸脱について理解できる。 2. 胎児および新生児の正常な発育経過と正常からの逸脱について理解できる。 3. 周産期各期におけるハイリスク要因とその管理について理解できる。 		
回数	授業内容		授業方法
1	遺伝		講義
2	妊娠 (1)		講義
3	妊娠 (2)		講義
4	不妊 (1)		講義
5	不妊 (2)		講義
6	妊婦検診		講義
7	分娩 (1)		講義
8	分娩 (2)		講義
9	分娩 (3)		講義
10	妊娠の異常 (1)		講義
11	妊娠の異常 (2)		講義
12	妊娠の異常 (3)		講義
13	産褥		講義
14	新生児		講義
15	新生児の異常		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学各論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	母性臨床看護援助論Ⅱ		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次後期
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	助産師
目的	周産期各期における母体の身体的特性と心理・社会的特性を理解し、健康の保持・増進するための看護を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期各期における母体の身体的変化と経過を理解し妊産褥婦の心理・社会面に及ぼす影響を理解できる。 2. 周産期各期の経過に応じた妊産褥婦のセルフケア能力を高める援助が理解できる。 3. 新生児の特徴を理解し、児の健康な発達にむけての援助が理解できる。 4. 周産期各期における家族の看護が理解できる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	妊娠期の看護：妊婦の心理、保健指導について	講義	
2	妊娠期の看護：保健指導の実際、事例演習	GW	
3	妊娠期の看護：不妊治療の看護	講義	
4	妊娠期の看護：ハイリスク妊婦の看護	講義	
5	分娩期の看護：分娩の要素	講義	
6	分娩期の看護：分娩の経過	講義	
7	分娩期の看護：産褥・胎児・家族のアセスメント	講義	
8	分娩期の看護：褥婦と家族の看護、分娩期の看護の実際	講義	
9	分娩期の看護：分娩の異常と看護	講義	
10	産褥期の看護：退行性変化、産後の身体的変化について	講義	
11	産褥期の看護：進行性変化、授乳について	講義	
12	産褥期の看護：褥婦の心理的变化、産褥指導、帝王切開の看護	講義	
13	新生児期の看護：新生児の生理	講義	
14	新生児の看護：新生児のアセスメント、マススクリーニング	講義	
15	新生児の看護：新生児仮死、高ビリルビン血症	講義	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	母性看護技術		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 助産師・アドバンス助産師・思春期保健相談員
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次後期
目的	妊産褥婦のセルフケア能力を高め、児が健康に成長発達するための看護技術を習得する。また事例を通して対象の元来備わっている力を引き出し、周産期各期の生理的な現象が順調に経過できるように看護を実践するための技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期看護に必要な観察および日常生活援助技術の基礎的能力を身につけることができる。 2. 事例を通して健康上の強みに着目してアセスメントし、周産期各期の対象とその家族の問題を解決する看護について理解できる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	ウェルネスの看護過程の考え方	講義	
2	事例を通して、妊娠期のアセスメントの実施	講義、GW	
3	母性看護技術（レオポルド触診法、ドップラー、計測）	講義	
4	分娩期の事例 GW 母性看護技術（NST 児心音聴取・内診の介助）	講義	
5	事例を用いた妊娠期のアセスメント、指導案とは	発表、講義	
6	保健指導の GW	GW	
7	呼吸法・タッチング・マッサージ法（アセスメント、計画の GW）	演習	
8	分娩期の看護過程、分娩期の看護	講義、GW	
9	産褥期のアセスメント（1）	講義、GW	
10	産褥期のアセスメント（2）、看護計画	講義	
11	沐浴についてデモンストレーション、沐浴演習	講義、演習	
12	産褥期の看護過程	発表、講義	
13	子宮底測定・ポジショニング・ラッチオン・排気・SMC マッサージ	演習	
14	ミルク授乳、オムツ交換など	演習	
15	沐浴指導・授乳指導の発表、まとめ	ロールプレイ	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	精神看護学概論		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期
目的	精神保健看護の特徴や役割を理解し、幅広く心の健康問題に対応するための基礎的能力を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の心の発達と心の健康問題に関連する要因について学び、あらゆる場で生活する人やあらゆる発達段階・健康段階にある人の心の健康について理解できる。 2. 精神保健看護の基本概念を学び、看護の特徴や役割について理解できる。 3. 精神障害者に対する社会の動向を把握し、精神障害者の権利、社会保障について理解できる。 		
回数	授業内容	講義方法	
1	日本の精神医療	アクティブラーニング	
2	世界の精神医療	アクティブラーニング	
3	精神の健康とは、精神保健における 3 つの予防概念	アクティブラーニング	
4	心の健康と発達（精神の構造、防衛機制） 精神の健康に関する普及啓発、偏見、差別、スティグマ	アクティブラーニング	
5	精神保健医療福祉の改革ビジョン	アクティブラーニング	
6	危機と対象喪失	アクティブラーニング	
7	ストレス、コーピング、燃え尽き症候群	アクティブラーニング	
8	精神の健康とマネジメント、引きこもり、リアリティショック	アクティブラーニング	
9	精神科的面接（患者と面接するときの工夫）	アクティブラーニング	
10	マインドフルネス	アクティブラーニング	
11	病跡学	アクティブラーニング	
12	自殺予防への対応	アクティブラーニング	
13	レジリエンスの鍛え方	アクティブラーニング	
14～15	「パッチアダムス」笑いの効果	DVD の視聴	
教科書 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本			
評価方法・基準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	精神臨床看護援助論 I		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	2 年次後期
目的	精神障害の基本的な考えを理解し、精神障害者の観察やアセスメントを行なう上で必要な基礎的知識を習得する。		
到達目標	精神障害を理解し、症状や状態によってもたらされる生活の変化と治療について理解できる。		
回数	授業内容		授業方法
1	精神障害の診断と分類		講義
2	統合失調症		講義
3	気分障害		講義
4	認知症		講義
5	せん妄・神経性障害		講義
6	神経発達障害		講義
7	薬物療法		講義
8	リエゾン精神看護・緩和ケア		講義
教科書			
精神発達と精神看護の基本 精神看護学①			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	精神臨床看護援助論Ⅱ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次後期
目的	対人関係を基軸に精神障害者の自立と社会復帰に向けた看護を行うための基礎的能力を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者－看護師の相互作用の特徴を知り、対人関係を基軸とした援助方法と精神障害のある人の自立に向けた看護について理解できる。 2. 精神障害者の人権擁護に配慮した看護について理解できる。 3. 支援システムを活用して、精神障害者が地域で生活していくための援助について理解できる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	精神障害についての基本的な考え方①	アクティブラーニング	
2	精神障害についての基本的な考え方②	アクティブラーニング	
3	人間のこころと行動	アクティブラーニング	
4	人格の発達と情緒体験	アクティブラーニング	
5	人生各期の発達課題：ライフサイクルとメンタルヘルス	アクティブラーニング	
6	現代社会とこころ	アクティブラーニング	
7	ストレスに対する身体的反応－心身症	アクティブラーニング	
8	看護の倫理と人権擁護①	アクティブラーニング	
9	看護の倫理と人権擁護②	アクティブラーニング	
10	精神医療の歴史と看護	アクティブラーニング	
11	精神保健医療福祉をめぐる法律	アクティブラーニング	
12	ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割	アクティブラーニング	
13	自殺予防への対応	アクティブラーニング	
14・15	「人生ここにあり」	DVD の視聴	
教科書 精神障害と看護の実践 精神看護学②			
評価方法・基準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	精神看護技術		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	3 年次前期
目的	事例を通して、発達課題の達成状況や精神障害が生活に及ぼす影響をアセスメントし、生活能力に応じて自立に向けた看護を実践するための技術を習得する。		
到達目標	1. 発達課題の達成状況や精神障害が生活に及ぼす影響をアセスメントし、生活能力に応じて自立に向けた看護を展開する基礎的能力を身につけることができる。 2. 看護者自身の知覚・感情・思考を自覚し対象理解を深めるための技術を身につけることができる。		
回数	授業内容		授業方法
1	精神科看護について 精神看護技術とは		講義
2	事例を用いた看護過程の展開 統合失調症の患者の看護 →疾患 →治療（薬物・生活療法とレクリエーション） →症状（陽性症状・陰性症状） →在宅へ向けての関わり		講義・GW
3	事例展開		GW
4	事例展開		発表
5	事例展開＋事例追加情報 看護過程のまとめ		GW 発表
6	事例展開 事例患者との関わり方について考え、実践し振り返る（1）		講義・GW
7	事例展開 事例患者との関わり方について考え、実践し振り返る（2）		GW
8	事例展開 事例患者との関わり方について考え、実践し振り返る（3）		演習・ロールプレイ
9	事例展開 事例患者との関わり方について考え、実践し振り返る（4）		演習
10	まとめ		講義 プロセスレコード
11	事例展開＋事例追加情報 事例患者への生活療法・レクリエーションを考える（1）		講義・GW
12	事例展開＋事例追加情報 事例患者への生活療法・レクリエーションを考える（2）		GW
13	事例展開＋事例追加情報 事例患者への生活療法・レクリエーションを考える（3）		GW・発表
14	まとめ		発表
15	精神看護技術まとめ		講義
教科書 医学書院			
評価方法・基準 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			